

議事（3） 医療・介護関係者の情報共有の支援について

1 函館市第6期介護保険事業計画

患者・利用者の在宅療養生活を支えるため、その状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかに情報共有できるよう、ネットワーク環境の充実を促進するほか、医療と介護における共通言語の構築などを支援します。

2 在宅医療・介護連携推進事業の手引き

情報共有の手順等を含めた情報共有ツール（※）を整備するなど、地域の医療・介護関係者間の情報共有を支援する。

※ 情報共有ツール：情報共有シート、連絡帳、地域連携クリティカルパス等

【目的】

患者・利用者の在宅療養生活を支えるために、患者・利用者の状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が行われること。

3 先進事例参考様式 ～ 資料5参照

- ・ 函館地域医療連携推進会議 共通様式
- ・ 名古屋市在宅医療・介護連携サマリー
- ・ 横須賀市退院前カンファレンスシート

4 情報共有ツールの必要性について

- ・ アンケート調査結果の概要 ～ 日常の療養支援について
→ 多職種連携を進めるための情報共有システムや書式の導入の必要性を感じているのは、各サービス事業所とも70%を超えているが、実際の導入状況は各サービス事業所とも35%以下となっている。

論 点

既存の情報共有ツールの活用状況の調査について

- ・ 協議会委員の各団体の傘下の関係機関に情報収集していただき、代表的な情報共有ツールを調査し、協議会へ報告頂きたい。
- ・ 情報共有ツール対応図（回答添付用） ～ 資料4
- ・ 回答〆切：平成27年12月2日（水）まで事務局へ提出
- ・ 回答集約後の取り組み ～ 情報共有ツールの統一化の必要性等について

5 参考：共有すべき情報の例（厚生労働省の例示）

- ・ 主治医や担当の介護支援専門員に関する情報（氏名・連絡先）
- ・ 患者・利用者とその家族の今後の療養についての希望
- ・ 介護提供時等に得られた患者・利用者の状況や体調の変化、服薬状況
- ・ 患者・利用者の食事摂取状況、排泄状況等の ADL
- ・ 患者・利用者の家屋の状況
- ・ 家族による介護の対応可能性
- ・ 患者・利用者の疾病、使用薬剤等に関する情報
- ・ 患者・利用者とその家族への病状の説明内容と受け止め方
- ・ 予測される体調の変化及び対応方法、急変時に対応する医療機関（医療機関が決まっている場合）、急変時の医療処置等に関する希望（希望が明確になっている場合）
- ・ 在宅療養における注意点
- ・ 在宅生活支援や介護の際の留意点

6 その他：ICTについて（2の国の手引きから抜粋）

ICTを利用した情報共有ツールの導入を検討する際には、ICT導入や活用による費用対効果、その地域の多くの地域の医療・介護関係者にとって実際に使いやすいツールであるかどうか等について慎重に検討する。

なお、本事業では、情報共有の方法やツール等を検討する際の会議、情報共有ツールの使用方法等の説明会の開催、情報共有の使用状況の把握と改善の検討に係る費用等を想定しており、情報共有のためのPCやモバイル機器等の購入費用、システム使用料等のいわゆるランニングコストについては対象にならない。